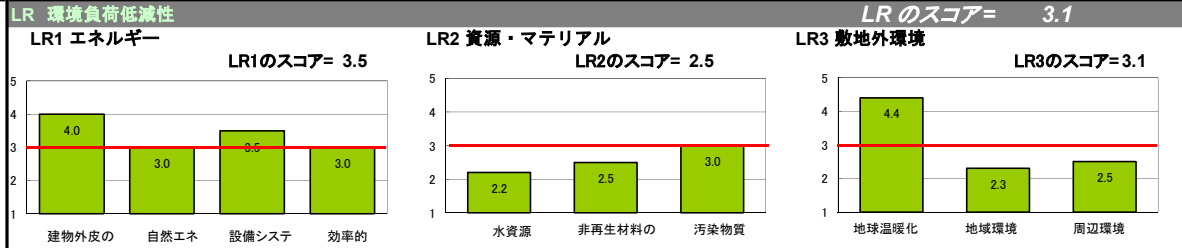
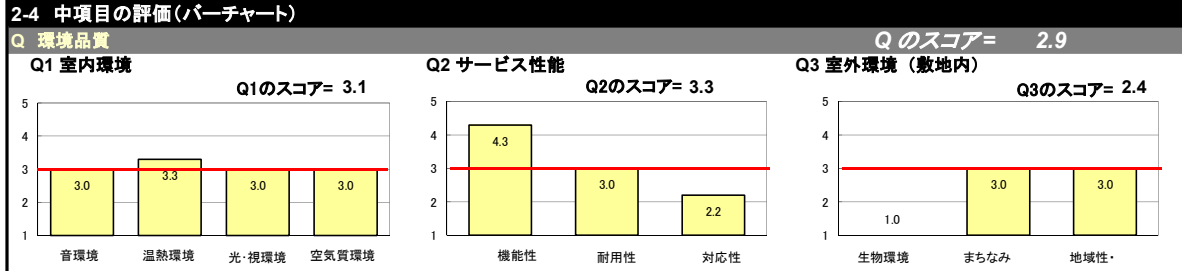
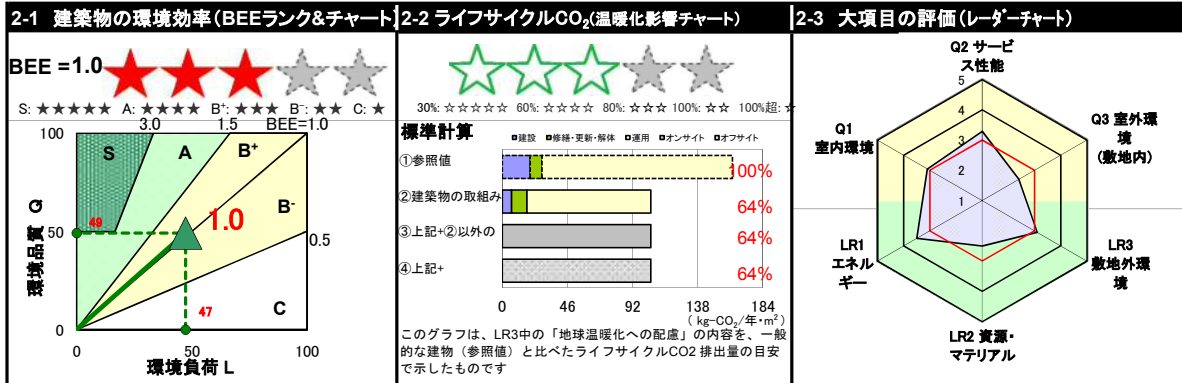


1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	アルパックス蒲郡レジデンス 新築		階数	地上7F
建設地	愛知県蒲郡市府相町字新井前903番		構造	RC造
用途地域	準工業地域		平均居住人員	200 人
気候区分	6地域		年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅		評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年2月	予定	評価の実施日	2017年11月2日
敷地面積	3,464 m ²		作成者	長谷工コーポレーション 和田
建築面積	904 m ²		確認日	2017年11月2日
延床面積	4,717 m ²		確認者	長谷工コーポレーション 亀井



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.4</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">30.6 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.6</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>〈外装材に使用した地域性のある材料〉</p> <p>なし</p> <p>〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部全体・共用部除く・宿泊部		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数
Q 建築物の環境品質									2.9
Q1 室内環境									3.0
1 音環境									
1.1 室内騒音レベル						0.40			-
1.2 遮音						0.15	3.0	3.0	1.00
1.1 室内騒音レベル						0.50	3.0	3.0	0.50
1.2 遮音						0.50	3.0	3.0	0.50
1 開口部遮音性能						3.0	3.0	3.0	0.30
2 界壁遮音性能						-	3.0	3.0	0.30
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	3.0	3.0	0.20
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	3.0	3.0	0.20
1.3 吸音						-	-	-	-
2 温熱環境									
2.1 室温制御						0.35	3.3	3.3	1.00
1 室温						0.50	3.3	3.3	1.00
2 外皮性能				日本住宅性能評価基準において等級4を取得予定。		0.63	3.0	3.0	0.63
3 ソーン別制御性						-	4.0	4.0	0.38
2.2 湿度制御						1.0	-	-	-
2.3 空調方式						1.0	-	-	-
3 光・視環境									
3.1 昼光利用						0.25	3.0	3.0	1.00
1 昼光率						0.30	3.0	3.0	0.50
2 方位別開口						-	3.0	3.0	0.50
3 昼光利用設備						1.00	3.0	3.0	0.20
3.2 グレア対策						0.30	3.0	3.0	0.50
1 昼光制御						1.00	3.0	3.0	1.00
3.3 照度						0.15	-	-	-
3.4 照明制御						0.25	-	-	-
4 空気環境									
4.1 発生源対策						0.25	3.0	3.0	1.00
1 化学汚染物質						0.60	3.0	3.0	0.63
4.2 換気						1.00	3.0	3.0	1.00
1 換気量						0.40	3.0	3.0	0.38
2 自然換気性能						0.50	3.0	3.0	0.33
3 取り入れ外気への配慮						0.50	3.0	3.0	0.33
4.3 運用管理						-	-	-	-
1 CO ₂ の監視						-	-	-	-
2 喫煙の制御						-	-	-	-
Q2 サービス性能									
1 機能性									
1.1 機能性・使いやすさ						0.30	-	-	-
1 広さ・収納性						0.40	4.4	4.4	1.00
2 高度情報通信設備対応				1Gbps以上のサービス導入可能となる配線・機器仕様としている。		0.40	5.0	5.0	0.60
3 バリアフリー計画				独自		1.00	5.0	5.0	1.00
1.2 心理性・快適性						0.30	3.5	3.5	0.40
1 広さ感・景観(天井高)						-	3.0	3.0	0.50
2 リフレッシュスペース				設計段階にてコンセプトを設定し、CGを用いて検証を行った。		1.00	4.0	4.0	0.50
3 内装計画						0.30	-	-	-
1.3 維持管理						0.50	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計						0.50	-	-	-
2 維持管理用機能の確保						0.50	-	-	-
2 耐用性・信頼性									
2.1 耐震・免震・制震・制振						0.31	-	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						0.48	-	-	-
2 免震・制震・制振性能						0.80	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数						0.20	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数				劣化対策等級3を採用。		0.33	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						0.23	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						0.09	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						0.08	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				1.汚水2.雑排水(耐火二層管) 3.給水(一般配管用ステンレス鋼管)		0.15	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔						0.23	-	-	-
2.4 信頼性						0.19	-	-	-
1 空調・換気設備						0.20	-	-	-
2 給排水・衛生設備						0.20	-	-	-
3 電気設備						0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法						0.20	-	-	-
5 通信・情報設備						0.20	-	-	-

3 対応性・更新性			2.8	0.29	2.2	2.2	1.00	2.2
3.1 空間のゆとり			-	-	1.4	1.4	-	0.50
1 階高のゆとり			-	-	-	1.0	-	0.60
2 空間の形状・自由さ			-	-	-	2.0	-	0.40
3.2 荷重のゆとり			-	-	-	3.0	-	0.50
3.3 設備の更新性			2.8	1.00	-	-	-	-
1 空調配管の更新性	②		3.0	0.17	-	-	-	-
2 給排水管の更新性			2.0	0.17	-	-	-	-
3 電気配線の更新性			3.0	0.11	-	-	-	-
4 通信配線の更新性			3.0	0.11	-	-	-	-
5 設備機器の更新性			3.0	0.22	-	-	-	-
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.22	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出	独自③		1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④		3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④		3.0	0.50	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	-	3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制		日本住宅性能評価基準において等級4を取得予定。	4.0	0.33	-	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.17	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		日本住宅性能評価基準において等級4を取得予定。	3.5	0.33	-	-	-	3.5
4 効率的運用			3.0	0.17	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	-	-
4.1 モニタリング			-	-	-	-	-	-
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	-	-
集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-	-	-
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	-	-
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	-	2.5
1 水資源保護			2.2	0.15	-	-	-	2.2
1.1 節水			1.0	0.40	-	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	-	-
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	1.00	-	-	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			2.5	0.63	-	-	-	2.5
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.07	-	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.25	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	②		3.0	0.21	-	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自		1.0	0.21	-	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自		3.0	0.25	-	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32	-	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.68	-	-	-	-
1 消火剤			-	-	-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-	-	-
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮	①	建設段階におけるCO2排出量を削減している。	4.4	0.33	-	-	-	4.4
2 地域環境への配慮			2.3	0.33	-	-	-	2.3
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.5	0.25	-	-	-	-
1 雨水排水負荷低減	独自		3.0	0.25	-	-	-	-
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	-	-
3 交通負荷抑制	独自		3.0	0.25	-	-	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制			1.0	0.25	-	-	-	-
3 周辺環境への配慮			2.5	0.33	-	-	-	2.5
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	-	-
1 騒音	独自		3.0	0.33	-	-	-	-
2 振動	独自		3.0	0.33	-	-	-	-
3 悪臭			3.0	0.33	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			1.6	0.40	-	-	-	-
1 風害の抑制			1.0	0.70	-	-	-	-
2 砂塵の抑制			-	-	-	-	-	-
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	-	-
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	-	-
1 屋外照明及び屋内照明の3ら外に漏れる光への対策		広告物照明を行っていない。	4.0	0.70	-	-	-	-
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	-	-

重点項目スコアシート

実施設計段階

■ 使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

アルパックス蒲郡レジデンス 新築工事

■ 評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.4
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.4	0.10	
② 資源の有効活用				2.6
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	2.8	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:30.6%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■ 重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 アルバックス蒲郡レジデン

計画上の配慮事項	
総合	緑地の確保と、建物の断熱性能・更新対策に配慮し、環境に配慮した計画としている。
Q1 室内環境	日本住宅性能評価基準「5-1 断熱性能等級」における等級4を取得予定。
Q2 サービス性能	更新性に配慮し、長期的な利用が可能な建物を目指した。
Q3 室外環境(敷地内)	緑地を配置し、良好な住環境の形成に配慮した。
LR1 エネルギー	日本住宅性能表示基準「5-1 断熱性能等級」における等級4を取得予定。
LR2 資源・マテリアル	有害物質を含まない建材種別を採用している。
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO2排出率が一般的な建物(参照値)と同等。
その他	特になし。